しもかわ財団の活動紹介
～つなぎ・ささえ・つくる～

課題解決型地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、都市部から移住した人が地域協力活動を行いながら、定住・定着を図る総務省の制度です。しもかわ財団では、地域の課題解決に直接関わる協力隊を「課題解決型地域おこし協力隊（シモカワベアーズ）」として受け入れています。

ヌマちゃん、下川を駆け回ってます！



こんにちは！「ヌマちゃん」こと菅沼亮輔です。長崎市から2025年4月に着任しました。役場・学校・地域の現場に入り込んで困りごとを見える化し、デジタルと人のつながりの両面から小さな改善を試しては広げています。

〈平日の取組み〉

・一人ひとりの「困った」に寄り添いたい。そんな思いから「スマホ相談室」は一方的に教える形をやめ、悩みを聞く相談室にしました。上名寄老人会へも出張しています。日進月歩のAIを一人で追うには限界があるからこそ、「しもかわそこにAIはあるん会」でみんなの使い方をシェアしています。

・町外の同世代と出会い、新しい刺激を受けてほしい。そんな思いで9月上旬にインターン生と町内の若手の交流会を開き、30人超が集まりました。タノシモカフェの企画やイベントの実行委員も務めています。

・役場や山びこ学園、学校では、負担を減らす業務改善に取り組んでいます。職員や先生が高齢者や子どもたちと向き合う「本来の仕事」に時間を使えるようにするためです。定住施策では、広報先月号で紹介したアンケートなどを分析し、型どおりではない、下川らしさを大切にした検討を進めています。



▲若手交流会の様子

〈休日の取組み〉

商工会青年部ではSNS担当として青年部が受け継いできた歴史などを発信しています。9月20日の「たんのカレーライスマラソン」では、下川の4人で177チームから選ばれた29チームに入り、仮装コンテストに出場。入賞は逃しましたが、ルパン三世の寸劇で下川のうどんを猛アピールしてきました。

最後に、個人的な目標をひとつ。道の駅巡りは全126駅中、残り9駅！今年度中の制覇を目指します！



▲たんのカレーマラソン

■お問い合わせ
総務企画課　企画調整係　☎4-2511　内線227
しもかわ地域振興機構（通称：しもかわ財団）☎4-3511

町内のお店や地域の歴史を知り、町民同士のつながりを育む
「町内ツアー」を開催しました。

町内のお店や地域の歴史を知り、町民同士のつながりを育む「町内ツアー」を開催しました。

9月28日には「町民とお店をつなぐプロジェクト」として、町民10人が「すずめキッチン」と「しもかわ森のブルワリー」を訪問しました。

すずめキッチンでは、手作りの弁当やオードブル、店内で使用する町産材の器などについて伺いました。店内では手作りの温かな料理を味わえるほか、15人程度の貸し切りや会食にも対応しています。店舗が入る「tekteku（てくてく）」は、木工作家や陶芸愛好会などが集まる、ものづくりと食の拠点です。料理だけでなく、器や家具にも地域の作り手の仕事が生かされています。

しもかわ森のブルワリーでは、移住や開業の経緯、ビール造りへの思いを伺いました。町内で採取したトドマツや栽培されたホップを使い、瓶詰めやラベル貼りまで一本ずつ手作業で仕上げています。参加者からは「店主の顔が分かり、お店に行きやすくなった」「お酒が飲めなくても楽しめることを知った」といった声が寄せられました。



▲町民とお店をつなぐプロジェクト

また、札天山収蔵展示施設を訪ねるツアーには24人が参加しました。施設には、かつて町内で使われていた生活道具や農具などが保存されています。案内役の解説を聞きながら、道具の用途や昔の暮らしについて学びました。

見学中には、当時を知る参加者が冬の生活や学校、交通などの思い出を語り、若い世代へ伝える場面も見られました。参加者同士で道具の使い方を教え合うなど、世代を越えた交流も自然に生まれました。アンケートでは、解説の分かりやすさが好評で、鉱山や林業などを取り上げてほしいという意見も寄せられました。

今回のツアーは、お店を営む人の思いや、町に残る資料と記憶に触れ、身近な地域の魅力を再発見する機会となりました。今後も、人や場所との出会いを通して下川を知り、町民同士がつながる取り組みを進めていきます。



▲札天山収蔵展示施設を訪ねるツアー